

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200248		
法人名	有限会社 ハート		
事業所名	グループホーム安里		
所在地	佐賀県唐津市佐志1156-26		
自己評価作成日	令和2年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年3月30日	外部評価確定日	令和4年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>唐津湾を望む高台に建つ木造平屋建ての1ユニットのホームである。リビングから、唐津城をはじめ唐津市内や虹ノ松原が一望でき、広い空と海は入居者様や来訪者様の目を楽ませている。 リビングは広く 明るく、空に続いて見えるようにと空をモチーフにした壁紙の天井になっている。 ホーム内は不快な臭いがしないように 消毒や換気に気をつけている。 運営は、代表者が認知症介護指導者及び認知症ケア専門士という事もあり、ご利用者様中心で職員と共に入居者様を主体としたケアに取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>玄関を入るとまず明るく見晴らしの良いリビングがある。利用者は思い思いに寛ぎながら職員との会話も聞こえてくる。安里に出会うまで数件の施設を転々とした家族が、ようやく安心できる所に辿り着いたと感謝の声を寄せている。職員もまた「利用者が自由に過ごせる場所」と自信を持って答え、決めつけたケアではなく、意見を出し合える職場環境でもある。当日の出勤メンバーで話し合う役割分担は、互いの得意不得意を補うチームワークが活きている。また、パット類等の一枚ずつに持ち主の名前を書く利用者のケースでは、これが作業療法のひとつというだけではなく、役割を持って暮らすことの喜びにも繋がっている。利用者は経験豊富な人生の先輩であるという想いの事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	迷った時は見れるように玄関、事務所、職員トイレに掲示し、朝の申し送りで唱和している。 ホームのルールも作成している。	法人で統一された運営理念の下に、隣接する同法人事業所と共有する理念も掲げている。更に、職員による「安里のルール」を作り上げていることも特長であり、具体的な表現でケアの基本を示している。目に付く場所への掲示や唱和で意識付けも図っている。当日の出勤メンバーで役割分担を決めたり、一つに絞らず意見を出し合っている様子には互いを信頼したチームワークの良さも窺える。「楽しく、ゆっくり、のんびりと」や「共に生活する家族です」と謳った理念の実践が垣間見える事業所である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をきっかけに地域の文化祭に作品を展示したり、神社のお祭りに参加、あるいは地域の獅子舞等に来て頂いている。 福祉施設の夏祭りには花火大会、運動会に参加して楽しんでいる。	事業所の立地上、周辺に民家は少なく、同法人や他法人施設等との交流も多い。コロナ禍前には互いの催し物に参加し合ったり、日常的な訪問や外出もあり楽しみとなっていた。現在は行事の中止や参加を見合わせている状況である。また利用者との面会も規制中であり、馴染みの方や地域の方々の来所も自粛をお願いしている。地域の情報は地元に住む職員や近隣施設からもたらされており、利用するゴミ集積場の掃除も続けながら地域社会との繋がりを保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席された地域の方(区長さん、民生委員さん、福祉施設の方、交番、消防署等)に認知症の議題に触れ情報を流している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護サービスの内容や行事報告が行われ、そこでの意見を今後のサービスに生かしている。	自己評価では「この会議を通して地域との繋がりがりや深まりはあまり増えていない」と答えているが、コロナ禍が大きく影響している。感染状況によっては集合での会議を諦め、資料配布のみとすることもある。タイミングよく開催できる時には概ね一時間を要し、隣接の同法人事業所と合同で開き、家族は代表者だけではなく自由参加もある。ヒヤリハットや事故、その教訓・対策まで報告しており、真摯に対応しているのが窺える。時節柄、話題はコロナ感染症に向くが、世間話の中にもヒントがあり、サービス向上に繋がるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より気になる事は窓口に出向いたり、電話をしたりして相談している。 また、空きが出ればパンフレットを市町村に持参して、相談に乗って頂いている。 月末に空き状況の調査されており、報告をしている。	運営推進会議のメンバーでもあり、日頃から顔なじみである。法人本部が問い合わせを行うこともあるが、事業所としても電話を掛けたり、内容によっては直接出向くこともある。実直に対応してもらえる関係は築いている。コロナ禍では実地指導の中止などもあるが、協働関係は維持されている。また、通常であれば介護相談員の訪問もあり、過去には居室内でのオムツ類の置き方をアドバイスされたり、利用者が名前変更について相談したことから方策を調べてくれたこともある。想いの聞き取りから事業所との橋渡し役まで自粛明け後の再開に期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	～身体拘束排除宣言～の内容を書いた紙を掲示して身体拘束ゼロを目指して実践している。	入居契約時に指針の説明を行っている。外部研修や、それを受講した職員による伝達講習もあり、職員は身体拘束の内容やその弊害まで理解している。玄関に施錠はなく、センサーは廊下の先にある非常口のみである。職員が目配り気配りによって安全で自由な暮らしを支援している。仮に外へ向かう利用者があれば無理に引き返すことはなく、暫く一緒に歩き、行動は抑えないのが基本である。また、不適切なケアが見られた場合は職員自らに考えさせ、自分がされて嫌な事はしないという原点を指導するとしている。管理者としては日頃からケアに関わり、早めの対処を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修に出向いて学ぶ機会をも持ち、伝達講習を行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修に出向いて学ぶ機会をも持ち、伝達講習を行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望が出たら、職員会議に出して改善するように努め運営に反映させている。また、急を要する時は 連絡網を回すようにしている	通常であれば家族の来所は多かった。元々、毎月の利用料請求時にはホーム便りの他、担当職員による近況や写真も添えていたが、面会が規制中の現状では嬉しい便りとなっている。事業所の特長として通信アプリのラインを活用した繋がりも挙げられる。リアルタイムでの動画や写真の送付、直接は会えなくともビデオ通話での会話がある。コロナ禍にありながら家族との接点を保ち、意見が出されれば前向きに活かす体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に出して話し合い、改善するように努め運営に反映させている。	毎月の職員会議には休みの職員も参加している。事前に取り上げてほしい案件を募っており、自由な意見交換の場でもある。夜間のオムツ交換は全員に必要かと提案され、大きいパットへの変更などアイデアを出し合い改善した例もある。夜勤者一人の時間帯だけを見直したのは功を奏している。当日の出勤メンバーで役割分担を話し合う様子にも互いへの信頼とチームワークの良さが窺える。また、管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、定時での帰宅を促し、休暇希望にも応えている。現場の声に耳を傾け、法人代表者にもきちんと届けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、個人面談をして、悩み、相談希望を聞き、その個人を知るようにしている。又、顧問税理士、労務士に相談しながら働きやすいように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修をできる限り、個人のレベルに合わせ、平等に受けることができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	唐津市のグループホームの集まりで、2ヶ月に1回勉強会があり、参加するようにしホームに持ち帰り伝達講習をしてサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人さんの意向を聞き、ケアプランを作成して説明するようにしている。(同意して頂けたらサインをもらうようにしている。)		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんの意向を聞き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 長期来れないところは郵送して理解を得るようにしている。又、最近ではLINEを使用したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族様の意向を聞き、ケアプランを作成して説明するようにしている。 (同意して頂けたらサインをもらうようにしている。)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に挙げていて、日頃から上目線ではなく共に過ごし支え合うように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えられた時には、お茶を出し 本人さんとの時間をゆっくりと過ごして頂くように努めている。 又、本人さんの近状報告をし 日頃よりコミュニケーションをとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞きながら外出、ドライブ、自宅への帰省などを支援している。 馴染みの人が面会に来られた時は、お茶・おやつを出したりして ゆっくり寛げるようにしている。	初期対応の中で本人や家族等と話をする機会がある。困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けている中でこれまでの人間関係も把握している。集めた情報を基に具体的な支援を行い、関係の継続に努めている。コロナ禍でなければ盆正月の帰宅(宿泊もあり)や墓参り、法事等への出席もあった。まだまだ自由な外出は用心しているが、電話の取次ぎはいつでも可能であり、家族とは通信アプリのラインを活用したビデオ通話など出来る事を駆使して希望に沿っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにソファを置き、利用者様同士が話しやすくしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いに行ったり、電話をしたり近くにお寄りの際は顔を出すように話している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人・御家族様に介護に対する意向を聞き、できる限り本人本位でいられるようにしている。 又、職員間での利用者様のコミュニケーションも大切にしている。	自己評価欄で「利用者と一緒にゆったり過ごす場面」と問われ「毎日ある」と答えている。隣に座り話し相手や歌を歌っている時などがそれで、お気に入りの職員を待つ利用者もある。スキンシップや選択肢を示す問いかけ方もごく自然な光景である。聞き取れた想いは口頭や通信アプリのライン(グループ登録)で共有を図っている。電子化されているケア記録にも記し、そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、本人様の昔話から聞き出し、又 御家族様から情報を得て、フェイスシートに落とし込んで把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々コミュニケーションをとり、フェイスシートに落とし込んで把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開き、それぞれの意見を聞き、介護計画を作成している。	入居して間もない時期は3カ月毎に見直し、徐々に6カ月まで延ばしている。その間に変化があれば臨機応変な対応である。アンケートでは殆どの家族が「説明を受け一緒に話し合っている」と答えている通り、サービス担当者会議への同席が難しい中、しっかりと電話で汲み取れるよう努めている。毎月のモニタリングはケアマネージャーが行うが、記入された支援経過を基に適切にサービスが実施されているか、掲げた目標達成に近づいているか等を分析している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの経過記録と熱計表は日勤、夜勤、特別に変化があった時に記載する。 又、スタッフ全員に伝えたいことは、最近ではLINEを使用し 情報を共有。 実践や介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じ、他の事業所の支援体制が取れるようにしている。 (デイサービス、ショートステイ、訪問介護サービス等)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、慰問のボランティア、警察、消防の方に協力していただき、暮らしを楽しむことができる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関をかかりつけ医とし、必要に応じて往診が受けられるようにしている。 定期受診は、御家族が付き添うが、できない時はスタッフが対応している。	かかりつけ医は、昔からの馴染みの医師の元へ通う方もあるが、殆どは入居後に説明を聞き納得して協力医へ変更した方々である。定期的な訪問診療もあり、家族アンケートでは「健康面や医療面等について心配な点はない」と答えた方が多い。他科受診では、入居時に診察券の有無を確認しており、本人や家族へ希望する病院を尋ねている。受診に向く際には職員が付き添い、その結果報告は当日中に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師がいて日常の健康管理や、適切な受診看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行ったり、電話をしたりして、医師、看護師、ソーシャルワーカーに情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期がきたら、かかりつけ医、看護師、スタッフで終末期のあり方について話し合い、本人やご家族様の意向を確認し、対応方針を文書で説明し、同意を得ている。	これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればそれに応え、エンゼルケアまでの用意もある。入居契約時に指針の説明を行うが、その時点での意向を尋ねつつ、後の話し合いも可能であることを伝えている。容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、何度でも対応しているからである。かかりつけ医の元へ行き直接説明を受けられることは、キーパーソン以外の家族・親族にとっても納得が得られる支援である。職員のフォローのひとつとして、ターミナルケア開始となれば改めて勉強会も実施している。本人や家族に寄り添い、安心して最期を迎えてもらえるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の勉強会は行っている。 救急隊の協力を得て、AEDの講習会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に訓練を行い(5月、11月)、避難方法が身につくようにしている。 万が一に備え、備蓄もしている。	年2回の訓練は隣接する同法人事業所(4棟)が合同で行い、火元を交替で設定し、消防署の立ち合いもある。昼間帯に実施し、夜間は想定のみだが、職員の駆け付けまでを10分とし、それまでは夜勤者役が一人に対応するという実情に近いものである。事業所が火元設定の時には利用者も一緒に体験するが、かかりつけ医等が記された居室名札を外し、首に掛けて避難している。これは応援者への情報となり退室確認にもなっている。職員は消火器や通報装置の使い方を承知しており、訓練後の反省点や課題は速やかに改善され全員に周知している。今後は一時避難場所を家族へも周知しておく件や、緊急時連絡網へ地区役員等を加える件などが検討される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から尊厳をもって接するように理念や、教訓を見につく場所へ掲示して、本人の気持ちに配慮した言葉かけが さりげなく出来るようにしている。	トイレや入浴の介助では羞恥心への配慮も心得ている。入居して間もない時期は同性によるケアが必要かどうか、想いを尋ねたり表情で判断することもある。また、入居時に利用者の呼び方を尋ねている点も特長であり、本人や家族の希望に沿い、慣れ親しんだ「○○ちゃん」と呼ばれている利用者もある。ここにも「共に生活する家族です」「笑顔のたえない明るい楽しい家庭を目指します」という理念が活かされている。更に、個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払い、イニシャルで伝える工夫もある。居室の名札やホーム便り等への掲載には入居時に承諾を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き、できる限り自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での全体の日課はあるが、その中でもどのように過ごしたいか希望を聞き、ケアプランを作成して 個々に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関しては、訪問美容を利用したり行きつけのある方は、御家族様 又はスタッフが付き添い その人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは本人の希望を聞きながら 又、食べやすい形で提供し、少しでも食べていただけのように支援している。	献立は冷蔵庫の中身や利用者に食べたいものを尋ねながら決まっている。好き嫌いやアレルギーの有無の把握もしており、毎食の摂取量は大切な指標にもなっている。食が細い方には高カロリー食の常備があり、軽い食器や持ちやすいスプーン、介助を最小限に止めることは残存能力の維持へと繋がっている。また、当日に祝う誕生日には本人のリクエスト食が用意され、人気はちらし寿司である。これまでは職員も一緒に同じものを食べながら和やかな食事風景であったが、飛沫対策中で同席を避け見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、朝・昼・夜とカルテに記入して、摂取量が少なければ バイタルサインチェックをして医師に報告し指示を仰ぐ。健康のパロメーターとして早期に異常の発見に努め一人ひとりに応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人のレベルに応じた口腔ケアをしている。 自力で出来る方、一部介助が必要な方、全介助が必要な方 その人に合った支援をしている。 また、歯科医からの助言も取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ソワソワされたら さりげなくトイレに案内している。 感じ取れるよう努力している。	排泄に関して自立した方もあるが、殆どの利用者は職員のケアにより支援されている。日中はトイレでの排泄がサポートされ、記録はタブレット端末を使い電子カルテ上に残されている。一日一度の洗浄や、排便ごとに拭き取るケアによって清潔保持や発熱予防にも効果が表れている。入居後にパット類の使用枚数が減り、費用負担の軽減となった例もある。また、家族からの情報で事業所内に普及したパット類もあり、周囲の声に耳を傾けていればこそである。トイレ内には手すりやひじ掛けが設置され、立ち座りを助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	旬の繊維の多い野菜を食材に使用したり、10時・15時はお茶したり、個々に合わせた運動をしたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応曜日は決めているが、お風呂に入りたいという要望があればシャワーを浴びたりしている。又、ゆっくりと入りたいという要望があれば時間を急かさないように心がけている。入浴を拒否された方には、タイミングを図り声かけしている。入浴剤で温泉気分が味わえるよう工夫をしている。	入浴は週3回を目安としているが、希望があったり汚染状況によって臨機応変なケアである。排便時の拭き取りや毎日の洗浄を行っていることで、入浴しない日でも清潔は保たれている。事業所の特長はリフト浴が出来ることで、利用者にとっては安全な入浴ができ、職員には体への負担軽減となっている。また、日々のバイタルチェックによって利用者毎の平均値が把握されており、入浴時には判断材料となっている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、出来る事は見守るのもケアのひとつである。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温には気をつけ、エアコン・ファンヒーター、空気洗浄機、加湿器を使用したり、特別 起床時間を設けておらず、本人が起きたい時に起き、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、副作用が理解できるように 一人ひとりの最新情報の薬の効能書きを各個人のカルテに閉じて情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴を聴取して、希望に沿った楽しみ、役割の支援をしている。 (個別に好きな音楽を聴いたり、キーボードを弾いたり、編み物をしていただいたり等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ等、希望に沿った外出支援に努めている。	コロナ禍前は職員の買物に同行したり、天候や体調をみて当日に決まるドライブ等もあった。現在は感染症に細心の注意を払っているため外出の機会は減っているが、周辺への散歩は日常的に支援している。リクライニング車椅子の利用者であっても同様である。外の空気に触れることは五感の刺激にもなると承知しており、桜の季節には庭先での昼食などを試み、楽しみを見つけようとしている。自粛の日々が終息し、自由にみんなで出掛けられる日を待ち望んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいと言う希望があれば、3,000円程度は持てるようにして、又 買い物の時などは 施設が立替えてお金を使えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃より換気をしたり、快適な温度でいれるようにエアコンを入れたりしている。 又 玄関には花を飾ったり、水槽、観葉植物を置いたりして 居心地よく過ごせるようにしている。	眼下に飛ぶ鳥を眺め、その先には唐津湾まで見渡せるリビングである。陽当たりもよく、職員との会話が聞こえ、思い思いに過ごす光景がみられる。利用者の動線上に行動を妨げる物もない。ドアや廊下の幅を広く取った設えは、身体機能が低下してもベッドごと移動が出来ればみんなと一緒に過ごせるという思いからである。また、本人が選んだというピンク色のテープを床に貼り、歩行練習の道標としている利用者もある。テープに沿うことで他者との接触・転倒を防ぐ工夫がみられる。天気が良ければ窓を少し開けておくのは常であり、換気への配慮も窺える。手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、不快な臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには自由に過ごせるソファなど置き、談話したりテレビを観たり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・布団・テレビ・ポータブルトイレなど、使い慣れた物を持ち込み 本人が居心地よく過ごせるようにしている。	居室に持ち込む品物は、火気等の危険物以外に制限はしていない。配置や飾り付けは本人とも相談しながら行い、その方らしく過ごしてもらえよう支援している。布団上下、枕は事業所で用意され、利用者が準備するものは毛布類である。衣類等も四季を通して所持している方もあれば、衣替えごとに家族が届ける方もいる。また、希望すれば居室への宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにして段差をなくしたり、廊下、お風呂、トイレなどに手すりを付けたり、ナースコールを付けたりして出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。 日付、曜日がわかりやすいように大きい手作りカレンダーを使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない